

平成 30 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび よろこび館A

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社ラ・サルーテ		
事業所名	グループホームよろこび よろこび館A		
所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町門字水上29-19		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果市町村受理日	平成30年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0393000138-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0393000138-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>町の中心部から10kmほど盛岡よりの幹線道路沿いの集落到位地している。2ユニットの事業所は、開所2年目を迎え、管理者を先頭に日々の支援を通じ事業所の基礎作りに意欲的に取り組んでいる。運営推進会議は、周辺集落からも広く老人クラブ代表や民生児童委員を委員とし、既にグループホームの応援団であり、今後、認知症を始めとする高齢者まつわる課題の勉強会等の場となっていくことも期待される。会社と管理者、管理者と職員、職員同士、職員と入居者・家族の関係は良好で、職員の提案を契機に職員休憩室の位置の見直しも行われている。グループホーム「よろこび」に対する集落の期待は大きく、これからは楽しみなホームである。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

平成 30 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームよろこび よろこび館A

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った介護が出来るよう努めています。	「穏やかにその方らしい毎日を笑顔で暮らせるよう寄り添います。家族や地域との結びつきを大切に開かれたホームづくりに努めます」とする理念は、開所時に全職員で創り上げたもので、ミーティングで管理者から特に周知している。新しく入ってきたスタッフにはその都度説明し、中には氏名札の裏に書いている人もいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開かれるイベントを見に行ったり、地元のスーパへ買い物に出かけたり、しています。	地区の産業まつりや小学校や中学校の学習発表会に招待され、近所のスーパーに出掛けおやつを買って来ることもある。毎月地域の婦人会の皆さんが踊りボランティアとして来所している。近々、子ども園の園児の来所が予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開き日常の認知症の方々の生活や係わり方の説明をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族、行政の方々の意見を参考にしている。	2カ月に1回、第3水曜日の午後で開催している。役場、警察、消防、多くの地域の方々を委員にお願いし意見や助言を頂き、事業所からは認知症について知りたいとの委員の声に応えている。会議は、開設間もないホームの応援団となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡は密には行えていないが、課題が生じた時には、相談し協力をお願いしている。	町の担当課(地域包括支援センター)には足げく訪ね、困難事例や医療面の指導を得ており、報告や情報交換の機会にもなっている。町の担当職員を講師に身体拘束の事業所内研修を開催するなど、目に見える協力関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、職員全員が身体拘束についての理解を深め、日々のケアに努めています。	職員の身体拘束の理解度に差があり、管理者から全体会議で説明している。スピーチロックに対しては、その都度管理者から個別に注意している。身体拘束に関する外部研修の成果は、参加した職員による復命講習を通じ、職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に言語的虐待は見過ごされる傾向があるので注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	極一部の職員が理解できている状態なのでこれから研修に参加し理解を深めていくよう努めます。 (11月研修参加予定)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を出してもらい、運営に反映できるよう努めている。	家族から施設の場所が分かりにくいとの指摘があり、3カ月前に看板を設置した。家族が来所した際には「お気づきのことはありませんか」と声をかけているが、苦情等は寄せられていない。管理者は要望や意見を頂けるよう、もう少し工夫してみたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や棟のミーティングで出た意見を集約し現場に反映させている	会議やミーティング以外でも日常的に意見を言える雰囲気があり、運営主体、管理者とも常に聞く体制にあり、職員休憩室の位置の見直し、洗濯乾燥場のエアコン設置等の声も直ちに具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には職員希望により受講できています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ出来ていないので、色々と計画を立て実行できるよう努めます。 (10月～11月ラ・サルデーテ交換研修予定)		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をすることで不安な事や要望等を聞き助言したり安心できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所された時や電話などでご家族の困っている事、不安、要望をお聞きし居心地の良いホーム作りと信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることを一緒に行い楽しみながら家族の一員と思えるような関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは何かあったら常に連絡を取り本人と共に支援出来るよう関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	難しく、面会に来ていただける方もいますが、外泊をしたときに出かけたりお会いするぐらいです。	家族や地元の方がしばしば来訪し、利用者は笑顔でホールでお話している。家が近くにある方は家の周りを散歩したり、スタッフはその都度一緒に出掛けている。馴染みの美容院に行く方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しかけて欲しい時を表情から読み取り、利用者同士で会話できるように間に入り、話を盛り上げ関係づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりと会話し今大変な事や楽しみみたい事など聞きながらその方らしい暮らしが出来るよう努めています。	職員に入居者の担当を割り当てせずに全職員が全入居者の担当者として、笑顔で声掛けしている。自分から伝えることが困難な方は、声かけ時のしぐさやサイン、示した選択肢への反応を読み取るようにしている。利用者の思いは、申し送りノートに記録し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族と本人から聞いて把握し計画通りサービスが出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録と職員同士の申し送りから把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員同士で情報を共有し意見やアイデアを取り入れた介護計画を作成しています。	3～6か月ごとに、申し送りノートやケア日誌と照らし合わせて計画担当者が案を立て、ケア会議で全員で検討して作成している。家族の意向把握、同意は面談又は郵送で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をもとにアセスメントを行い職員同士で情報を共有し実践、見直ししています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の親族が遠方の方や都合の付かない時は通院介助をホームで行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、役場、他の施設と情報交換し本人が望む生活ができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と御家族の意向通りの受診ができるよう支援しています。	受診の同行は、家族が遠方の場合には職員だが、大半は家族が行っている。利用者に必要以上の負担をかけないよう診察券の提出、投薬の受け取りはスタッフが連携して行う。状態に変化がある時には、職員も同行して医師に説明している。家族にはバイタル等のメモを渡し、医師の説明は家族から口頭で聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今、看護職がないので至急雇用確保し利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援したい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携を取り情報交換し早期退院できるよう関係づくりをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と信頼関係を築き本人、家族が望むことを受け入れながらもホームが出来ることを説明し納得して頂いています。	1名の方の家族から、看取りの希望が出ているが、現段階では看取りを行える状況にはないことを説明し、納得していただいている。介護度3の段階で、特養等への入所を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ説明だけで訓練は出来ていないので早急に行うよう努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を行い全職員が速急に避難対応できるように努めている。 その時、地域の方々にも協力して頂けるよう連携を取っています。	運営推進会議の委員の協力を得て、年に2回の避難訓練を行っている。災害発生の恐れがある場合には、消防の指導もあり、まず、山側のB棟からA棟に避難することになっている。町から避難場所に指定され、食料、水等に加え反射式ストーブ等を備蓄したいとしている。	年2回の避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練はまだ経験していない。職員が近くに居住していることは心強いですが、まず、職員のみで夜間の避難対応や周囲の環境等を机上で検討されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で情報交換し一人ひとりの人格を尊重し言葉に気を付けながら対応しています。	入居者一人一人を理解し、プライドに配慮した声掛けや誘導に心掛けている。職員自身が「言われていやなこと、されていやなこと」は言わない・しないを徹底し、人手が足りない時でも、命令的な口調にならないよう、職員同士で気を付け合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し自己決定できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望む生活を一番に考えその方のペースに合わせた介護支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや髭剃りなど入浴時に注意深く観察し声掛けしなるべく自立でできるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたい物をメニューに取り入れられたり彩りよく見せる事で食欲を促し大事な食事を楽しみながら出来ています。 片付けもお願いしています。	何を食べたいか聞いて献立に入れるようにし、三食ともスタッフと一緒に同じテーブルで、会話を楽しみながら食べている。食事の跡片付けは皆が参加している。来年は自家菜園で野菜を育て食材にしたいと考えている。ドライブしながら道の駅で外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理は介護記録に記入し職員同士が把握し一人ひとりの栄養摂取や水分確保の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けで本人の力に応じた口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせたパターンや習慣を活かし自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に沿って声掛け、誘導している。完全に自立した方が両ユニットに1人ずつおり、夜間のみ居室でポータブルを使用している方もある。町支給のリハビリパンツを有効に使用し、家族の負担軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、運動、服薬の管理など個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔保持の出来る間隔で声掛けし個々の希望や体調に沿った支援をしています。	週2回以上を目安に、介助する職員を固定せず状況に合わせて対応している。午前3人、午後は1人が足浴としているが、1番風呂に拘る方や同性介助を希望する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣やその日の状況に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方された薬の理解に努め、症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除、食器拭きなど手伝いをいただいています。 好きな食べ物や間食は本人の状態を考慮しながらできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々の協力での外出はできていないが、日々の散歩やドライブ、地域の催しなどへの支援している。	雨の日以外、毎日坂の下まで職員と歩いている方がいる。車椅子を利用している方も日光浴を兼ねてホーム周辺を見て回っている。利用者は花見等のドライブを楽しみにし、買い物に出かける方もある。花を植えたり野菜を植えたりしたいとの声が多くある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額であれば本人が管理できる方もおられるので御家族の同意を得て財布を持たせています。 その他は金庫でお預かりし買い物や通院時に使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望むとき事務所より電話をかけて会話したり手紙が届いたら本人に必ず知らせています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が居心地が良くつろげる空間を心がけ家具の配置を行っています。	日当たりのとても良いホールで、お気に入りの場所は、テレビの前、ソファー、廊下のイス等、それぞれである。フローには季節を感じさせる切り絵(紅葉、柿)が飾られ、居室のドアにも目印に切り絵が貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは利用者様同士がそれぞれの居心地の良い場所を見つけてつろぎ居室では独りでゆっくりと好きなようにくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と本人の意見をお聞きし好きなものを好きな位置に配置しています。	震災や台風で家や家族を亡くされた方が数人おり、職員はそれとなく気を付けている。仏壇や思い出の場所での写真が飾られ、布団類は持ち込みで丹前を使っている方が数人いる。清掃が行き届き整理整頓され、落ち着きと安心感のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアやトイレなどに目印になるよう貼り絵を貼っています。		